

うしお

第 111 号

昭和 40 年 8 月

目 次

昭和 40 年度ブリ仔分布及び採捕漁業試験実施概要	漁業部 塩田正人	1
6, 7 月のマグロ延縄漁況	漁業部	12
定置観測 (7 月分)	養殖部	13
漁場観測速報 (6 月分)	〃	15
〃 (7 月分)	〃	17
奄美短信	大島分場	19
業務概況	編集部	20
分場の動き	大島分場	22
養魚場の動き	大口養魚場	23

鹿児島市城南町 20 番 12 号

鹿児島県水産試験場

か大隅東部海域を初め県沿岸一帯には一般に流れ藻、ブリ仔の出現共に少なく、又たまたまブリ仔の出現を見ても魚体小さく種苗として用いられないもの多く本年も又他県種苗に依存しなければならぬ漁況に終始するかに思われたが、5月中旬後半に入り鹿児島湾内にて種苗適魚(4~6cm)の多獲が見られ、本県蕃養事業開始以来7ヶ年目にして漸く自給自足し得たが、6月の終漁期を待たずして予定通り5月末を以つて「かもめ」による試験操業を終了した。次に旬別に流れ藻とモジヤコとの関係を見ると

5月上旬

中ノ瀬、鹿児島湾口附近には流れ藻やゝあり、ブリ仔の出現を見るも魚体小さく(体長1.5~3cm)、種苗として不適であり且つ綱目を抜け出す始末で採捕出来なかつたが、その他の海域では流れ藻、ブリ仔共に出現を見なかつた。

5月中旬

前半鹿児島湾内、湾口には流れ藻多く見るもブリ仔見えず、又、大隅東部海域には両者共に出現なく、一方宮崎県南部海域には流れ藻、ブリ仔共に多く出現を見るもブリ仔の体長3~1.4cmと不揃いであつた。旬後半鹿児島湾内及び湾口にては流れ藻多く見るもブリ仔の出現閑散にて漁獲も散発的で魚体も小さく(体長2~3cm)種苗として難点はあつたが、一応漁期に入つた模様で各船の出漁が活潑となつた。

5月下旬

前半時化多く調査範囲が限定されたが、大隅東部海域では佐多岬~観音岬間は流れ藻、ブリ仔共に全く認めず、観音岬~火崎間には流れ藻見るもブリ仔全く認めず、又鹿児島湾口には流れ藻多く見るもブリ仔の付悪く(0~50尾程度)一方山川港東より高須、喜入を結ぶ湾内にはブリ仔(体長4~6cm)の出現多く28~31日間には最高漁獲35,000尾(知林島SEI中心)の好漁船もあつたが、民間船の報告では湾内に於ける好漁は6月2日で終漁したようである。

ブリ仔は一般に南方海域から補給されるとの定説を採れば初期に薩南、湾口大隅東部各海域に出現見、且つ多額の条件をもつべきと考えられるに反し漁場が湾内に限定されたのは本年の特異現象と言わざるをえない。

以上要約した流れ藻、ブリ仔の旬別出現状況及びブリ仔体長組成について第1、2、3図及び第2表に記した。

◎ 海況について

本調査期間は現場表面水温の測定のみにとどめた。本年は異状気象による気温低下のためか各海域の表面水温は例年に比し相当の低目を示していた。特に5月上旬の大隅東部大泊~辺塚沿岸では16.9℃台と異状水温帯も認められ、これ等の影響のためかブリ仔の出現もなく永年の好漁場であつた片鱗すらも窺えなかつた。

然し中旬以降は除々に上昇し、平年並にもどりつゝあつた。旬別表面水温とモジヤコ、流れ藻の関係については第1図「漁海況定線観測資料及び西日本海洋

旬報（長海気）資料による」と下表に略記した。

月、旬、別	漁場	表面水温範囲	ブリ仔体長範囲	流れ藻出現状況
5月上旬	大隅東部海域①	16.9—23.4℃	2—8 ^{cm}	少し
	鹿児島湾内口②	19.5—21.9	1.5—8	少々多し
	薩南海域③	21.9	〃	少し
	串木野海湾④	18.7—19.5	〃	多し
5月中旬	大隅東部海域①	19.6—22.9	2—8	なし
	鹿児島湾内口②	20.6—22.9	〃	少々多し
	薩南海域③	22.9	〃	なし
	宮崎県沖合⑤	19.3—21.2	2—12.5	少々多し
5月下旬	大隅東部海域①	20.4—22.1	3—8	少し
	鹿児島湾内口②	21.8—22.8	〃	少々多し

又、水産庁に於ける「モシヤコ採捕のブリ資源に及ぼす影響委託調査要項」に基づく標識札放流経過は第4図及び第3表の通り（図、表省略）

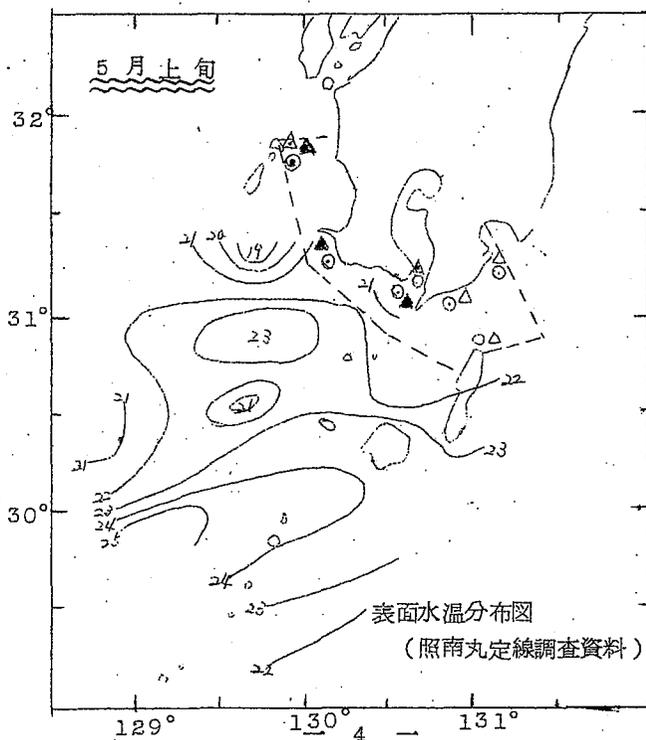
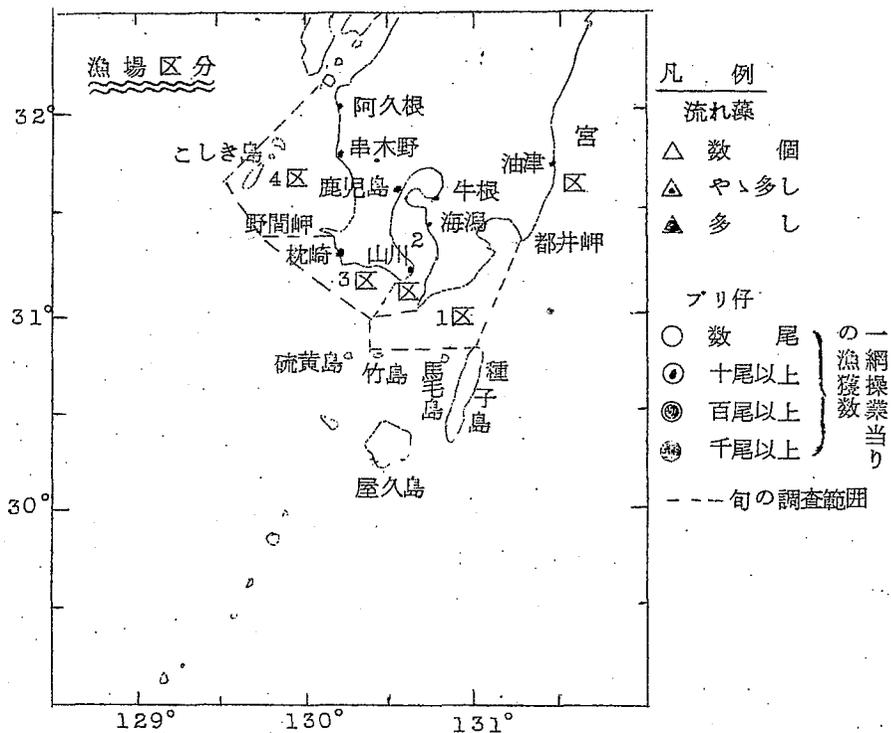
◎ ブリ仔の採捕について

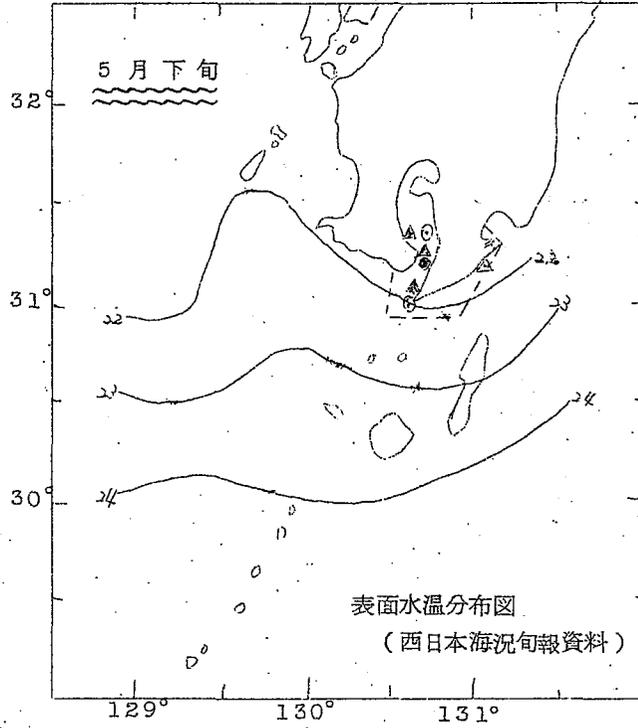
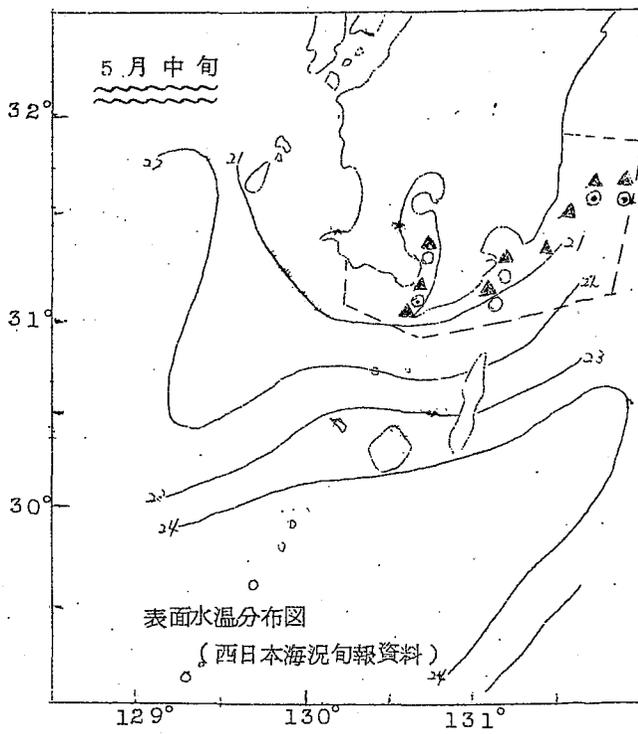
本年は前記した通りブリ仔の出現が一旬ないし2旬位おくれた感じである。5月上旬の調査開始当初は体長1.5～1.4cmと不揃いの2群が見られた。毎旬各海域で少数ではあるが小型群（2～3cm）が絶えず散見された事は産卵魚群の一部南下のおくれた事や、産卵が散発的に行なわれたとの南水研支所のブリ仔漁況予報と一致するようである。

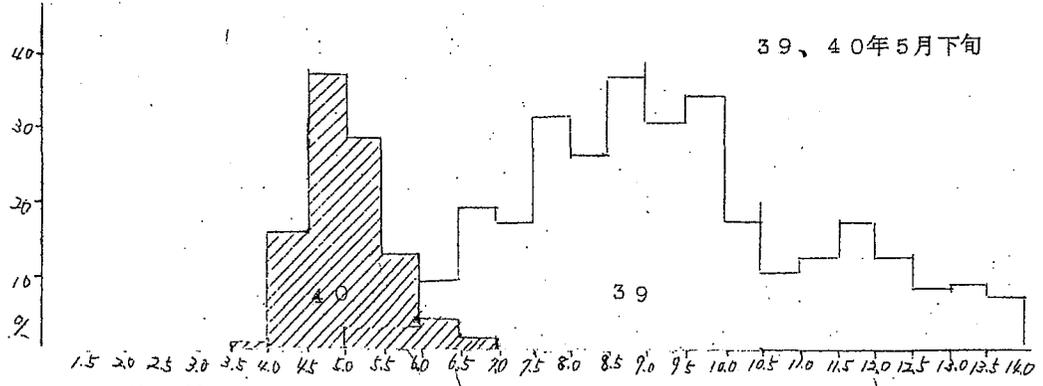
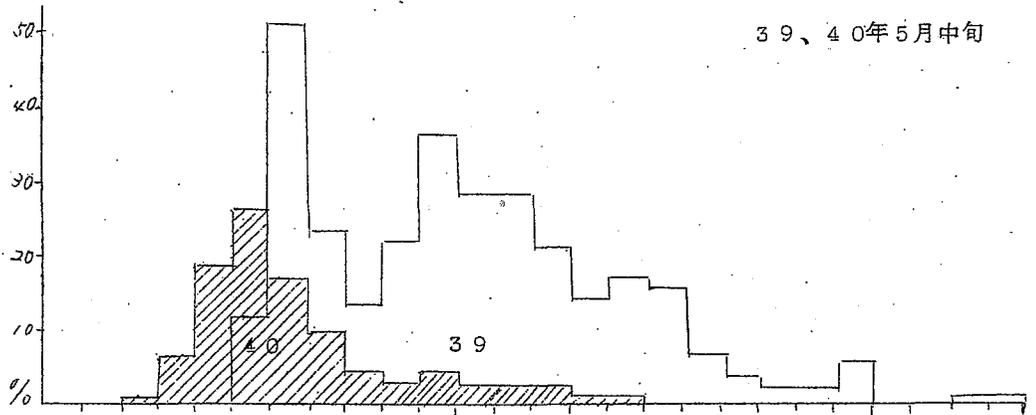
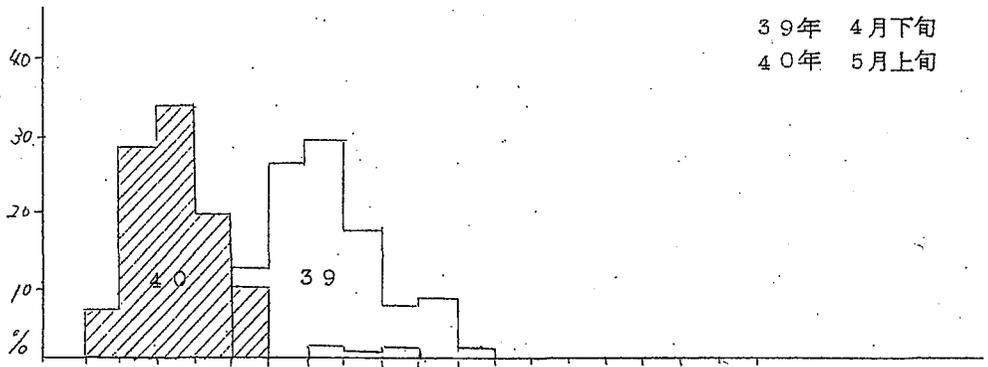
本調査期間中は各海域で時たま多量のブリ仔群に遭遇したが使用旋網の魚捕部目合（25節ナイロン）より逸脱する稚魚（2～3cm）が多く、意識的に採捕をしなかつたが本年は38、39年に比し一般的に分布も広く量的にも多かつた。民間船15隻は専ら鹿児島湾内で操業し、最高漁獲船は約84,100尾位となり各船共に好漁であつた。指導船及び民間船の採捕状況は第4～8表に記した。

次に指導船のブリ仔採捕尾数と時間との関係は第5図の通りで各年とも11.00～13.00時（3ヶ年の操業日の天候を見ると38年雨曇、39年曇、40年晴となつている）の間に最も多く漁獲が見られるがこれは日照時間（僅かではあるが表面水温が変化する？）と海況によるものではないかと思考される。

第1図 昭和40年度ブリ仔採捕調査漁場図

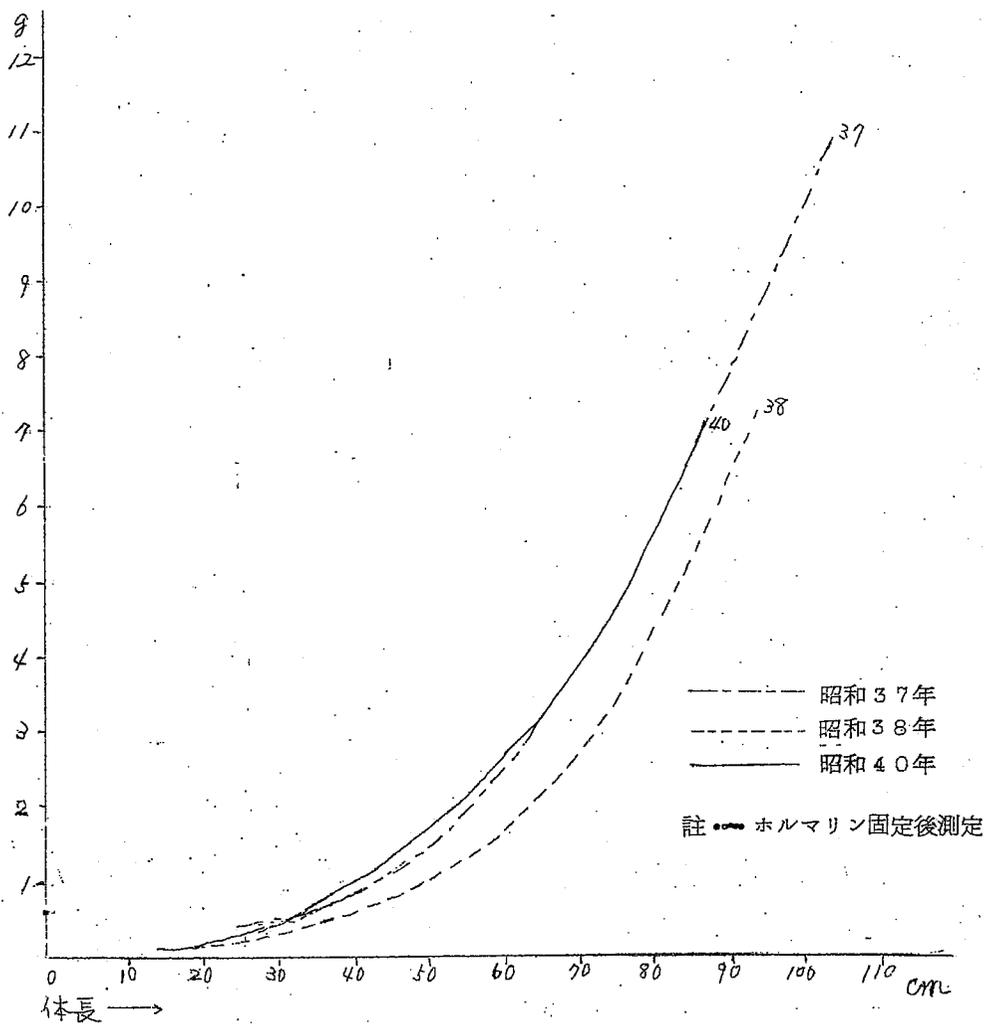






第2図 プリ仔体長組成図

CMC



第3図 プリ仔体長と体重との関係図

第2表 プリ仔の旬別体長組成表

又 長	5 月 上 旬		5 月 中 旬		5 月 下 旬	
	尾 数	%	尾 数	%	尾 数	%
1.5~ 1.9	11	6.2				
2.0~ 2.4	50	28.5	3	0.6		
2.5~ 2.9	58	33.1	29	6.1		
3.0~ 3.4	34	19.4	88	18.6		
3.5~ 3.9	16	9.1	120	25.4	3	0.6
4.0~ 4.4			80	16.9	71	15.4
4.5~ 4.9	3	1.7	46	9.7	168	36.4
5.0~ 5.4	1	0.5	19	4.0	133	28.5
5.5~ 5.9	2	1.1	14	2.9	56	12.1
6.0~ 6.4			19	4.0	18	3.9
6.5~ 6.9			11	2.3	6	1.3
7.0~ 7.4			11	2.3		
7.5~ 7.9			11	2.3	3	0.6
8.0~ 8.4			6	1.2	1	0.2
8.5~ 8.9			5	1.0	2	0.4
9.0~ 9.4			2	0.4		
9.5~ 9.9			2	0.4		
10.0~10.4			1	0.2		
10.5~10.9			2	0.4		
11.0~11.4			1	0.2		
11.5~11.9			1	0.2		
12.0~12.4			1	0.2		
計	175	100	472	100	461	100
漁 場	鹿児島湾口 こしき島	153尾 22"	宮崎県側 内ノ浦	400尾 72"	鹿児島湾内	461尾

第4表 昭和40年度ブリ仔採捕量(水試、民間船)

所屬漁協名	氏名	5	HP	稼動日数	総漁獲尾数	4月		5月		6月		操 始 終	業 期 期
						日数	漁獲尾数	日数	漁獲尾数	日数	漁獲尾数		
古江	① 瀬戸口敬吉	4.5	2.0	31	55,474	3	100	25	26,620	3	28,754	4,28~6,3	
	小計				55,474		100		26,620		28,754		
垂水	② 和田勇吉	4.4	2.0	10	25,000			10	25,000			5,25~5,24	
	③ 深見正道	1.5	7	10	15,000			10	15,000			"	
	④ 瀬脇時盛	2.4	1.5	10	25,000			10	25,000			"	
	⑤ 和田源市	4.9	3.0	14	35,000	4	10,000	10	25,000			4,15~5,31	
	⑥ 和田澄	2.4	1.5	8	20,000			8	20,000			5,13~5,24	
	⑦ 川畑与吉	2.2	1.4	10	20,000			10	20,000			"	
	⑧ 川畑源之丞	2.1	1.5	13	50,000			13	50,000			5,7~5,26	
	⑨ 深見休次郎	3.0	2.0	8	60,000			8	60,000			5,14~5,24	
	⑩ 岩切藤吉	2.1	1.7	9	20,000			9	20,000			5,7~5,23	
	⑪ 篠原重雄	2.0	1.5	10	30,000			10	30,000			5,10~5,29	
	⑫ 小浜秀吉	2.1	1.1	10	15,000			10	15,000			5,10~5,24	
	⑬ 岩元浅葵	3.6	1.8	8	10,000			8	10,000			5,11~5,24	
	⑭ 米田豊	2.4	1.4	6	20,000			6	20,000			"	
		小計				345,000		10,000		335,000			
牛根	⑮ 漁協			15	84,100			13	76,000	2	8,100	5,6~6,2	
	小計				84,100				76,000		8,100		
水試	⑯ かもめ	1.4	6.5	27	35,327			27	35,327			5,1~5,31	
	小計				35,327				35,327				
総計					519,901		10,100		472,947		36,854		

第5表 プリ仔旬別採捕量(水試かもめ)

月旬別	操業日数 日	操業回数		採捕尾数 尾	体長範囲 cm	体重範囲 g
		抄網	旋網			
5月上旬	6	38	9	775	1.5~8.0	0.1~2.5
〃中旬	9	1	68	1,325	2.0~12.5	0.4~17.5
〃下旬	6		73	23,227	3.0~8.5	0.7~7.0
計	21	39	150	35,327	1.5~12.5	0.1~17.0

第6表 プリ仔、旬別漁獲量(水試分)

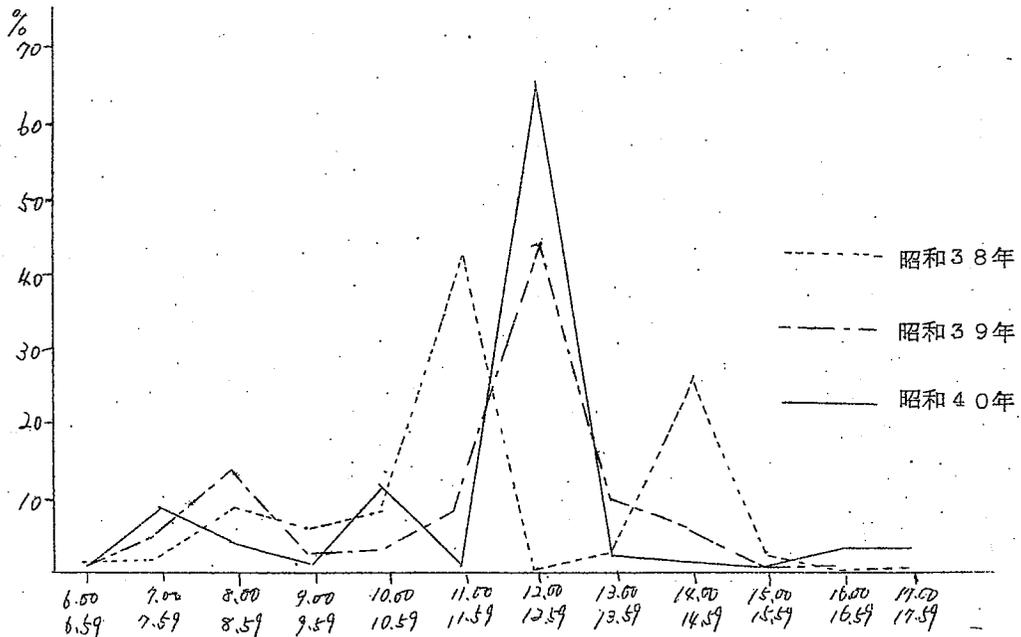
漁場 旬別	漁要 旬別	1 区			2 区			3 区			4 区			宮 区			計		
		漁獲 尾数	操業 回数	平均 尾															
5月 上旬	抄網	30	6	5	617	22	28	5	1	5	38	9	4.3				690	38	18.2
	旋網				85	8	10.6	0	1	0							85	9	9.4
	計	30	6	5	702	30	23.4	5	2	25	38	9	4.3				775	47	16.5
5月 中旬	抄網				0	1	0										0	1	0
	旋網	206	3	68.6	1,258	25	50.3	300	2	150				9,561	38	251.6	11,325	68	166.5
	計	206	3	68.6	1,258	26	48.2	300	2	150				9,561	38	251.6	11,325	69	164.1
5月 下旬	旋網	280	2	140	22,947	71	323.2										23,227	73	318.1
	計	280	2	140	22,947	71	323.2										23,227	73	318.1
計	抄網	30	6	5	617	23	28	5	1	5	38	9	4.3				690	39	17.7
	旋網	486	5	97.2	24,290	104	233.5	300	3	100				9,561	38	251.6	34,637	150	230.9
	計	516	11	46.9	24,907	127	196.1	305	4	76.2	38	9	4.3	9,561	38	251.6	35,327	189	18.7

第7表 海区別漁獲量(指数) (水試分)

旬別	漁具別	1区	2区	3区	4区	宮区	計
5月上旬	抄網	100%	87.8%	100%	100%	%	89.6%
	旋網		12.2				11.0
5月中旬	抄網						
	旋網	100	100	100		100	100
5月下旬	旋網	100	100				100
計	抄網	5.9	2.5	1.7	100		2.0
	旋網	94.1	97.5	98.3		100	98.0
漁場別	漁獲量	1.5	70.5	0.8	0.1	27.1	100

第8表 海区別漁獲努力指数(作業回数) (水試分)

漁具	海区	1区	2区	3区	4区	宮区	計
抄網		54.5	17.9	25.0	100		20.7
旋網		45.5	82.1	75.0		100	79.3
計		5.8	67.2	2.2	4.7	20.1	100%



第5図 プリ仔採捕尾数と時間の関係

6、7月のマグロ延縄漁況

漁業部

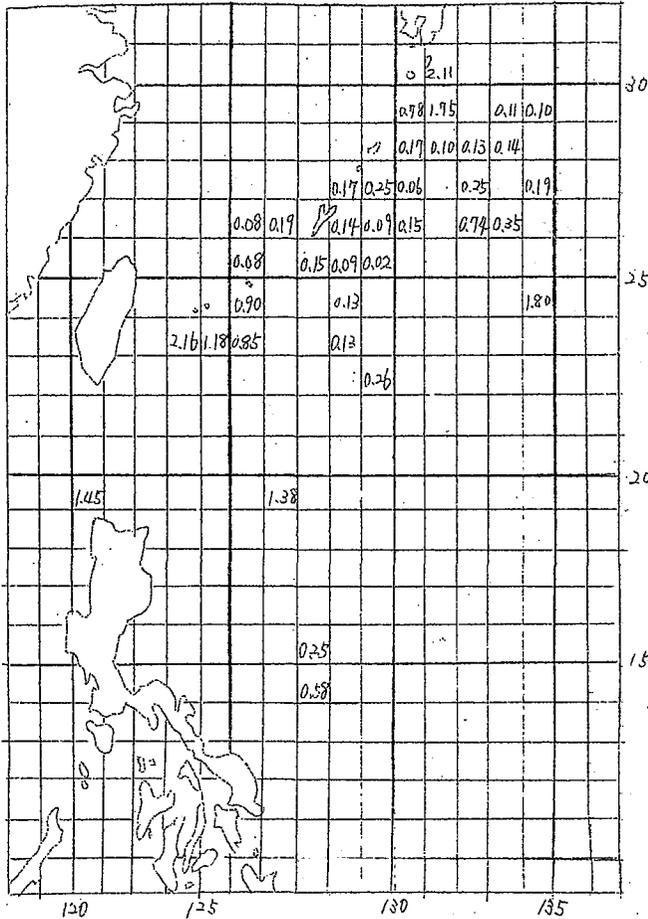
6月

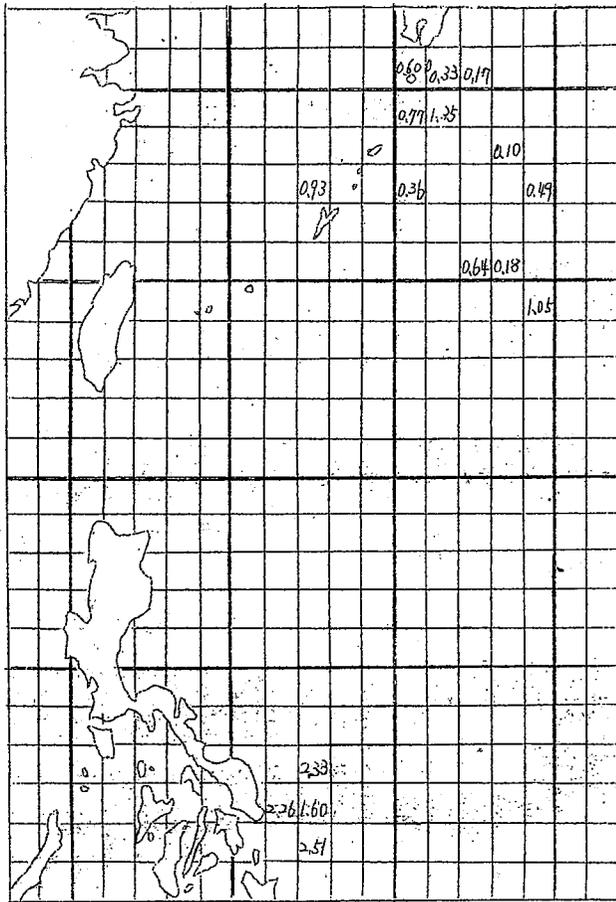
各船クロマグロを目的として操業している。漁場は台湾近海～薩南海域で主漁場は24°～28°N、127°～132°附近の沖縄東方海域である。釣獲率は5月と大差なく最高0.50で総体で0.13となつている。

一方6月はキハダの漁獲が多くなつており、特に台湾東方及び種子島近海（主に生き餌使用の小型船）では釣獲率は2.0を超える海域も見られている。

7月

船体整備期に入り沖合船の入港は僅かで種子島、屋久島近海の小型船が主であつた。漁獲物は主にキハダとバシヨウカジキである。キハダの漁況は6月をピークとして不振となつており、漁獲率もミンダナオ島東方海域の2.0以上の海区を除き近海では1.0以下となつている。





定置観測 (7月分)

養殖部

○ 旬別平均水温、比重(満潮時)

旬	水 温 ℃				比 重 ρ_{15}			
	本 年	前旬差	前年同期差	平年差	本 年	前旬差	前年同期差	平年差
上	24.03	+ 1.45	- 2.24	- 1.27	23.25	- 2.41	- 1.66	+ 0.35
中	26.55	+ 2.52	+ 0.09	- 0.21	23.59	+ 0.34	- 2.07	+ 0.85
下	28.10	+ 1.55	- 0.10	+ 0.38	22.77	- 0.82	- 2.73	- 0.10
月平均	25.91	+ 3.89	- 1.02	- 0.71	23.28	- 2.65	- 2.10	+ 0.44

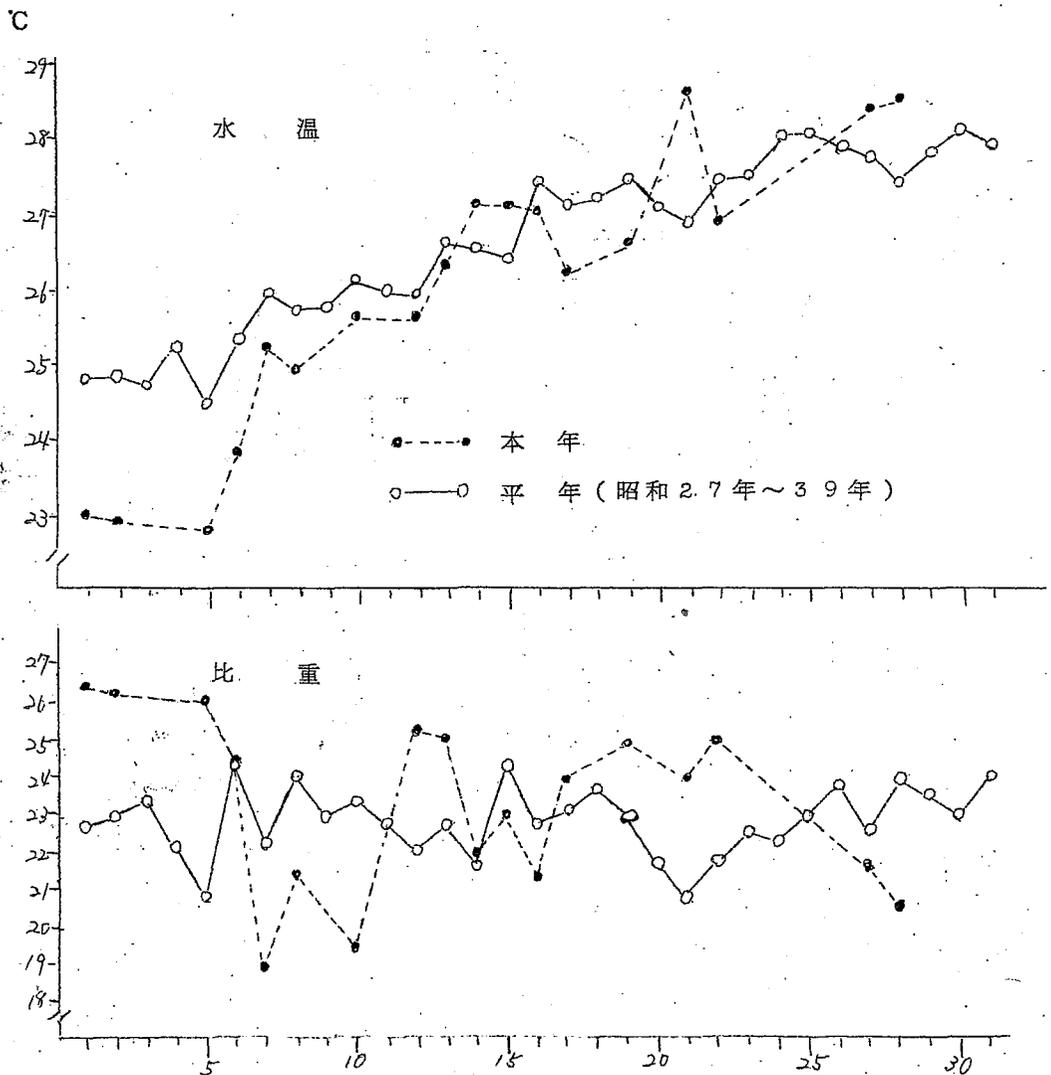
○ 水 温

前月に引き続き一般に平年より低目を示した。
 上旬では平年水温より約 1.3°C も低目であつたが中～下旬にかけて平年並に戻つた。月平均水温は前月より 3.9°C 昇温し、平年値より 0.7°C 低目であつた。

○ 比 重

18～26と大巾に変動し、降雨のため比重に低下がみられた。月平均比重は前月より2.6も低くなつたが平年値に近い値になつている。

7月の水温・比重



漁場観測速報 (6月分)

養殖部

I 旬別平均水温

観測地 旬別	里		水成川		福山		福山(5月分)	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
上旬	21.7	20.5	23.1	22.7	24.9	21.6	20.6	18.3
中旬	22.4	21.3	23.4	22.6	24.2	21.0	21.8	19.6
下旬	23.3	22.0	22.9	22.4	24.6	23.0	25.0	23.3
月平均	22.46	21.28	23.13	22.55	24.51	21.83	22.43	19.70
前月差	+1.34	+1.54	+2.12	+2.02	+2.08	+2.13	+4.89	+3.4
前年差	+0.03	-0.25	-0.07	-0.11	-	-	-	-

- 里村の6月平均水温は22.46～21.28℃を示し、前月と比較して1.34～1.54℃高く、前年同期と比較すると最高は22.43℃で0.03℃高く、最低では21.53℃で逆に0.25℃低くなっている。
- 水成川の月平均水温は23.13～22.55℃を示し、前月と比較して2.12～2.02℃高く、前年同期と比較すると最高で23.2℃で0.07℃低く、最低では22.66℃で0.11℃何れも低くなっている。
- 福山町の5月平均水温は22.43～19.70℃を示し、前月と比較して4.89～3.4℃と水温も上昇し、6月でも平均水温24.51～21.83℃で前月より2.08～2.13℃と高くなつてきている。
- 長崎海洋气象台7月上旬報によれば、南西諸島から九州の近海に至る黒潮流域の水温は引き続き平年より低く、また東シナ海中部及び南部等広い範囲にわたり低目となりました。これは梅雨の影響ともみられますが一部分的な現象でなく、今後も低目が続く見込みです。梅雨明けが近くなり、沿岸附近には強い日射しのもとに赤潮の発生、或いは二重潮の起る恐れがあるので注意が肝要とのことです。

II 漁況

1、水成川

総漁獲量は2,152kgで、これを魚種別にみると、コダイが1,206kgで全体の56%と大半を占め、次に瀬魚が338kgで15.71%、キビナゴで11.8%、ハガツオ9.15%、タルメ5.44%、イトヨリ1.85%となつている。これを前月と比較してみると総漁獲量で559kgの増獲となつており主な変動を魚種別にみるとコダイで246kg、キビナゴで184kgの増獲となつている。又前年同期と比較してみると、総漁獲量が750kgで

月 旬	上			中			下			漁 獲 量 計
	有 漁 日 数	延出漁 船 数	漁獲量	有 漁 日 数	延出漁 船 数	漁獲量	有 漁 日 数	延出漁 船 数	漁獲量	
コダイ	8	40	962	4	10	88	4	20	156	1,206
キビナゴ	3	3	100				3	9	154	254
タルメ	3	8	117							117
イトヨリ	1	6	40							40
瀬 魚	4	9	263	2	3	30	2	3	45	338
ハガツオ				3	10	137	2	7	60	197
計	19	66	1,482	9	23	255	11	39	415	2,152

1,402 kg の増獲となっており魚種別には、コダイが363 kgで843 kg、瀬魚が107 kgに増獲されており、更にキビナゴ漁が254 kg加わっているのが目立っている。

2. 里 村

月 旬	上			中			下			漁 獲 量 計
	有 漁 日 数	延出漁 船 数	漁獲量	有 漁 日 数	延出漁 船 数	漁獲量	有 漁 日 数	延出漁 船 数	漁獲量	
赤イカ	4	5	150	1	2	70	2	2	65	285
水イカ	9	15	1,140	6	6	345	8	10	595	2,080
イシダイ	7	11	540				5	8	565	1,105
キビナゴ	9	89	10,780	8	75	23,600	8	84	14,500	48,880
瀬 魚	3	5	460				2	4	280	740
タ コ	3	4	170	2	2	50	2	2	150	370
イサキ	2	6	11,600				3	8	3,210	14,810
メジナ	5	13	4,450				1	3	750	5,200
ヒラス	1	3	280				1	3	50	330
タバメ	3	7	270	1	1	20	3	6	200	490
ブダイ	1	2	220							220
ニザダイ	1	2	135							135
メジロ							1	2	130	130
カマス							1	1	2,050	2,050
計	48	162	30,195	18	86	24,085	37	133	22,545	76,825

総漁獲量は76,825kgで、これを魚種別にみるとキビナゴが48,880kgで63.62%で大半を占め、次にイサキが14,810kgで19.27%、メジナで6.8%、水イカで2.7%、カマス2.7%、イシダイ1.0%となっている。これを前月と比較してみると総漁獲量で11,777kgの増獲となっており、魚種別の主な変動をみるとキビナゴが12,920kg、イサキで14,610kgの増獲され、反面メジナで11,771kg、瀬魚で4,100kgの減獲されているが目立っている。又前年同期と比較すると総漁獲量は44,525kgで32,300kgの増獲となっている。これを魚種別にみると今年はキビナゴ漁にめぐまれ48,880kgの漁獲があつており、反面イサキが16,127kg減獲されているが目立っている。

漁 場 観 測 速 報 (7月分)

養 殖 部

I 旬別平均水温

旬 観測地 別	里		水 成 川		福 山	
	最 高	最 低	最 高	最 低	最 高	最 低
上 旬	—	—	23.8	23.0	25.6	24.4
中 旬	26.1	23.8	25.3	24.6	28.1	27.0
下 旬	26.8	25.0	26.3	25.7	33.5	32.1
月平均	26.40	24.36	25.17	24.46	28.11	26.90
前月差	+3.94	+3.08	+2.04	+1.91	+3.60	+5.07
前年差	+0.62	+0.45	-1.23	-1.54	—	—

- 里村の7月平均水温は24.36～26.40℃を示し、前月と比較して3～4℃高く、前年同期と比較すると前年の最高は25.78℃で0.62℃高く、最低は23.91℃で0.45℃高くなっている。
- 水成川の月平均水温は24.46～25.17℃で、前月と比較すると約2℃高く、前年の同期と比較すると、最高では26.4℃で1.23℃、最低では26.0℃で1.54℃いずれも低くなっている。
- 福山の平均水温は26.90～28.11℃を示し、前月と比較して3.6～5.0℃高くなっている。
- 長崎気象台8月上旬報によれば、台風15号通過のため水温は急に下り、九州近海1℃低くなつた。その後次第に回復に向つているが今後も平年より低目

が続く見込みである。また沿岸、入海などには赤潮の発生するおそれがあるので注意を要するとのことである。

II 漁 況

1、水 成 川

総漁獲量は4,211.5kgで、これを魚種別にみるとアジ、サバが1,380.5kgで全体の32.8%を占め、次いでコダイ925kgで21.9%、サバ、ハガツオが605kgで14.4%、イカが537kgで12.7%となっている。

これを前月と比較してみると、総漁獲量で2,059.5kgの増獲となっており、魚種別の変動では前月水揚げの大半を占めたコダイが7月では281kg減となったが、前月まで水揚げのなかつたアジ、サバ、イカの漁獲が多く、前月総漁獲量の10~15%を占めたキビナゴ、瀬魚などが水揚げされていない。又、前年同期と比較してみると前年7月の総漁獲量は1,365kgで2,846.5kgの増獲となっており、魚種別にはアジ、サバの45kgが1,335.5kg、コダイの335kgが590kg増獲されたのが目立っており、イカ、サバでは583kgで483kgの減となっている。

月 旬	上			中			下			漁 獲 量 計
	有 漁 日 数	延 出 漁 船 数	漁 獲 量	有 漁 日 数	延 出 漁 船 数	漁 獲 量	有 漁 日 数	延 出 漁 船 数	漁 獲 量	
コダイ	3	5	215	10	27	665	3	5	45	925
アサヒガニ	3	10	209							209
キツネガツオ	3	12	270	1	6	25	1	5	30	325
アマダイ				1	4	30				30
タカマス				2	4	100				100
アサバ				2	10	390	8	42	990.5	1,380.5
サハガツオ				1	5	230	3	13	375	605
サバ				1	2	100				100
イカ							10	50	537	537
計	9	27	694	18	58	1,540	25	115	1,977.5	4,211.5

2、里 村

総漁獲量は1,369kgで、これを魚種別にみるとカマスが542kgで全体の39.6%を占め、次いで瀬魚が345kgで25.2%、クチミが222kgで16.2%、タコが105kgで7.7%、アオリイカが75kgで5.5%となっている。これを前月と比較してみると、前月の総漁獲量は76,825kgで75,456kgも激減している。魚種別の主な変動をみると、前月大半を占めたキビナゴ、その他イサキ、メジナなどが全く漁獲されておらず、瀬魚も

740kgが395kgも減っている。

また、前年同時期と比較すると、総漁獲量は11,094kgで9,725kg減獲となつている。これを魚種別にみると前年総漁獲量の大半を占めたメジナが本年はわずかに2.6%で、その他クチミダイ、タコなどいずれも少なく、これらにカマスの542kgが加わっているのが目立っている。

月 旬	上			中			下			漁 獲 量 計		
	有 日	漁 数	延出 船 数	漁 獲 量	有 日	漁 数	延出 船 数	漁 獲 量	有 日		漁 数	延出 船 数
カ.ジメ				1	1	30						30
メジナ				1	1	35						35
アオリイカ				1	1	30	1	1	45			75
アカイカ				1	1	15						15
タ コ				1	1	60	1	1	45			105
瀬 魚				2	2	105	3	3	240			345
カマス				1	1	542						542
クチミ							2	2	222			222
計				8	8	817	7	7	552			1,369

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
 ☆ 奄 美 短 信 ☆
 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

海は一層青く、8月の太陽に照らされ白くキラキラ輝いている。鳴き騒ぐアザシの群が水面につゝこみ、つゝこみまいあがる風景が所々で見られ、海岸では子供達が釣り糸を垂れている群をいたる所で見かける奄美のこの頃とでもいえようか。

今年と昨年の最高気温を比較してみると昨年は34.5℃台が最高に対し、今年は7月中旬から下旬にかけては毎日34.0℃台以上の日々が続き最高が35.9℃台と昨年より高目を示した。この高温も台風15号によりやわらぎ台風通過後1

週間は最高気温 27.9℃台～29.5℃台と奄美の晩夏を思わせる涼しさ、この涼しさが過ぎると特有の暑さを盛返し暑い日が続いている。

台風15号も1風夜吹き荒れたがたいした被害もなく、無事通過、この台風にもたらされた雨により農家では二毛作の植えつけに忙しいとのこと。

台風シーズンになると定期便の欠航によつて食糧品(野菜類)の欠乏を来す。夏の間は特に野菜類が少ない奄美では、ほとんどの野菜類を郡外入荷に頼っている現状では野菜の新鮮味が失なわれている。野菜の全部を郡外入荷に頼らず奄美農業でも作ることは出来ないものかと素人ながら考えさせられる。

お盆ともなると帰郷客で桟橋は一段と賑やかになる。地味な田舎町、帰郷者の衣服の色が目をはきつける。

盆がすむと盆おどりが初まり、2,3年前までは夏の夜を夜半までおどり、タイコ音があちこちから聞え各部落の人々が集まり部落特有の歌、おどりというものが見られたが今年は実にひっそりとしている。

これもテレビの普及によるものと思う。テレビの普及により時期の催し物に幾分見物人が少なくなつたように思う。だが老人、小学生と国内、国際ニュースに関心が持たれたことは喜ばしいことである。その反面盆おどり、又は古き文化、特に方言などの特有味が失なわれていくことは淋しいことである。

(K , Y)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆ 業 務 概 況 ☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

○ 漁 業 部

☼ 照 南 丸

1) 8月海洋観測

8月2日～10日実施。15号台風により8月4日～6日の間山川に待避す。(担当者 徳留 陽一郎)

2) 二次海底調査

8月17日～31日実施。前月に引続いて坊岬沖合の調査を実施した。(担当者 竹下 克一 , 徳留 陽一郎)

☼ か も め

瀬魚の底刺網を沖合に誘導する意味において

- 1) 8月21日～24日、片浦沖合にて試験操業を行なったが揚網機に故障を生じ修復のため一応鹿児島に帰港す。(担当者 川上 市正)
- 2) 8月28日～9月6日の予定。宇治、草垣、屋久島方面を指向しているか、操業その他熟練を要する点あり。(担当者 岩倉 栄)

○ 調 査 部

※ ハマチ人工餌料比較試験

- 1) 桜島水族館外池内で実施中の標記の養成前期第2回魚体測定を8月6、7日実施し、目下結果取纏め中。
(担当者 九万田 一己, 上田 忠男, 弟子丸 修, 荒牧 孝行)
- 2) 試験地を垂水市海潟江の島西側地先に移し8月9日から引続き後期養成試験を開始、試験区分はオイル区、淡水区、海水区(人工餌料に、オイル、淡水、海水を投与前注加)の三区とし、8月29日、30日第1回の魚体測定を実施、目下整理中。(担当者 1)と同じ)

※ 海産魚類蓄養説明会並びにガザミ試験地選定指導

出水市役所並びに高尾野町役場からの招へいにより8月24日出水市漁協会議室においてハマチ、ガザミ、アユ等の蓄養技術について説明会に参会。出席者15名。

8月25日高尾野町野口において、ガザミ蓄養の説明並びに試験地の選定場所等についての現地指導を行う。

(担当者 島山 国雄, 九万田 一己)

※ 分析関係

ハマチ養成試験魚の肉質等の分析、並びに種苗センター候補地附近の海水分析を実施中。(上田 忠男, 弟子丸 修)

○ 養 殖 部

※ 鹿児島湾内定点水質調査

8月9～12日に指宿、垂水、牛根、赤水の4定点で採水したものについて、Skeletonema, Nannochloris, Chlamydomonas, Microalgae, Dunaliella Monochrysis の6種によるBio-assayを実施した。

(担当者 山口 昭宣, 椎原 久幸)

※ イセエビ、フィロゾーマ飼育

7月14日ふ化したフィロゾーマ幼生を引き続き室内で飼育中で、9月1日に第7回の脱皮がはじまつた。(担当者 椎原 久幸, 山口 昭宣)

※ クロチヨウガイ人工採苗試験

8月3日から川辺郡坊ノ津町泊の大原真珠養殖場の作業室を借用して、人工受精による室内採苗を実験中。(担当者 瀬戸口 勇)

※ フジツボ防除対策調査

鹿児島湾内でのアコヤガイ母貝養殖にとってフジツボの着生が甚しいので、4月から定期的に福山、竜ヶ水地先での着生時期、着生水深等を調べるため、

コンクターを吊下している。8月2日、16日、9月2日に実施した。

(担当者 前田 耕作 , 山口 昭宣)

✿ ノリ糸状体培養

前月に引き続き、南日本産各地のアマノリ品種の糸状体培養を行なった。
7月下旬からの黄斑病の発生は8月中も頻発し、塩化第一銅10ppm浸漬
後淡水処理し8月下旬に治まった。(担当者 新村 巖)

✿ クロチヨウガイ病員対策試験

病原性細菌による病員対策として8月16～18日に坊ノ津町養殖場で薬
劑処理試験を実施した。クロチヨウガイへ常法による挿核後、ペニシリン海
水、またはペニシリンとストレプトマイシン混合海水に60分間浸漬処理し
た。ひきつゞき8月22日、27日と5日間隔に同様な方法で実施し、病変
発現の有無をみている。(担当者 豊田 茂樹)

○ 製造部

✿ しいらくん製指導

温くん製法による試作品が企業化可能の見通しを得たので、更に積極的に
業界への企業を推進するための指導と販路の拡張を図った。

(担当者 石神 次男 , 藤田 薫 , 木下 耕之進)

✿ アユ焼干、くん製、粕漬製造指導

民間飼育のアユを原料とし、魚価の安定を図ると共に観光土産品への開発
のため調味焼干、くん製、粕漬製造を指導、企業化への指針とした。

(担当者 石神 次男 , 藤田 薫 , 木下 耕之進)

✿ ソルビン酸による品質保持試験

ソルビン酸、AF₂、ニトロフラゾンによる塩蔵アジの保蔵効果について
試験中。(担当者 是枝 登)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆ 分 場 の 動 き ☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

○ 製造係

✿ 8月23～25日請島においてウニ加工試験実施。

✿ 大島海峡海洋観測水質分析中。

○ 漁業係

※ 台風後、10日間位カツオ漁が好転してきたが8月下旬以降再び不漁が続いている。現在各漁船共本島沿岸の各曾根付群を対象として操業している。

※ 8月下旬知之浦沿岸においてクサヤマロの仔(FL 10~15cm)が待網で漁獲されムロ仔の来游が例年より1ヶ月位早い。

○ 養殖係

※ マベ室内採苗開始

- 7月31日、8月2日、8月12日に各受精を行なったが、成長若干遅く8月24日現在Spatsみられず。(255~230μ)
- 15ℓ-10本、17ℓ-10本、19ℓ-3本、5ℓ-10本及びSY式循環水槽にて飼育中。
- 餌料テストではCyclatusはChoetocerosよりも良好。
- 幼生(150~250μ)の温度に対する抵抗テストでは、上限43℃、下限4.2℃にて纖毛運動停止した。
又低比重に対するテストを継続中。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆ 養 魚 場 の 動 き ☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

1、概況

6月下旬から7月上旬にかけての長期豪雨により池水が汚染され、給餌が思うようにできず、あゆは成長が遅れた。

にじます稚魚で濁水により換水率が悪い池では梅雨明けと同時に白点病が蔓延し、斃死魚が続出した。

水温は中旬以降急上昇し、日中の最高水温が25.6℃を記録した。

にじます稚魚及びこい稚魚の配付を別項のとおり実施した。

2、飼育現況表

魚種	7月1日飼育数	7月の増重	処 分 内 訳		現在数 (含推定算出)
			販売数	死魚数	
稚ます (0年魚)	707790尾		30214尾	55891尾	681,685尾
食用ます (1~2年魚)	1272.7kg	81kg	185.9kg	235.1kg	932.7kg
親ます候補	2447尾			16尾 6.6kg	2,431尾
親ます	459尾			♀~8尾~8.9kg ♂~8尾~7.5kg	443尾
あゆ	866.4kg	140kg	27.0kg	42.9尾 14.2kg	965.2kg
親ごい	200尾		3尾	0	197尾
稚ごい	1,264,000尾		10,900尾	0	1,253,100尾 推定実数約20万尾

7月7日 細菌性疾病の消毒中に斃死。
 稚ごいはミジンコ池に放養したまま、で現在数は放養時の尾数から算出した。
 稚ごい(青仔)の歩留りは当場では約20%程度で20万尾と推定される。
 たゞし、現在まで産替えを実施してないため不明。

3、給餌の概要 (魚種別7月の給餌料は次のとおりである。)

稚ます		食用ます		親ます及候補	
ます稚魚用 №2	289 kg	魚粉	7.35 kg	魚粉	396
〃 №3	477	ます用粉末	44.1	ます用粉末	9.0
ます稚魚用餌付粉末	38	小麦粉	29.4	干あみ	26.7
ます成魚用粉末	65	ます用ペレット №5	225	小麦粉	183
あゆ用粉末	10	フィードオイル	5.4	ます用ペレット №5	138
魚粉	175	n f - 180	66.2 g	フィードオイル	36
小麦粉	285			ビタミン混合	0.9
フィードオイル	23.5	n f - 180		マツカラム氏塩	0.9
ビタミン混合	5.4			n f - 180	180 g
n f - 180	1.02				

あゆ		親ごい		稚ごい	
魚粉	622 kg	ごい用 №5	48 kg	ごい粉末	110
あゆ用粉末	573	〃 粉末	9	〃 №2	155
小麦粉	172	魚粉	22.2	小麦粉	13
魚肝魚	351	小麦粉	7.2	n f - 180	225 g
鮮	1.15	小麦	27.6	ユベラフード	225 g
干あみ	75	ビタミン混合	420 g		

4、種苗配付内訳

(1) にじます稚魚

配付月日	氏名	数量	所在地
7 8	内村 義幸	5,000尾	あい良郡霧島町
// 13	市坪 一見	10,200	川辺郡知覧町
// 16	松下 彰	3,200	串木野市冠岳
// 23	川原 嘉長	1,050	鹿児島市南林寺町 池～郡山町
// 27	竹中 司その他	10,600	あい良郡吉松町
	その他	164	
	計	30,214	

(2) こい稚魚配付内訳

配付月日	氏名	数量	所在地
7 20	米 永	2,000尾	伊佐郡菱刈町
// 21	白石 良雄	4,800	谷山市
// 30	鬼塚 仲吉	2,000	大口市向井野
// //	高山 唯義	2,000	同上
// 28	その他	100	
	計	10,900	

5、7月の水温変化

定点 用水路

自記水温計による1日の最高、最低の平均値

月の最高水温 25.6℃

月の最低水温 17.5℃

